

## 「心理実習」に求められる学びのあり方について(4)

### — 「心理演習」のシラバス分析をもとに —

岩山 孝幸

#### 問題・背景

心理専門職初の国家資格である「公認心理師」の養成が始まり2024年度で7年目となる。現在、公認心理師法附則第5条に規定されている法施行後「5年後の見直し」(厚生労働省, 2022)が行われており、公認心理師制度の点検が進められている最中である。その中で注目すべきは、2023年6月に公開された各関連団体を対象とするヒアリングの中間整理(文部科学省・厚生労働省, 2023)(以下、中間整理)である。「中間整理」では、公認心理師の実態把握のための調査実施、養成カリキュラムの修正、実習演習体制の整備などの対応の方針がまとめられている。実際、この「中間整理」をもとに2023年度から「公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会」が開始されるなど、公認心理師制度に関する見直しの方針を左右する重要な報告書となっている。

筆者は「中間整理」が報告される前から、知見が限られていた大学課程における「心理実習」の授業運営に資する要素の抽出に努めてきた。例えば、公認心理師カリキュラム等検討会(2017)において学習目標<sup>1)</sup>が決められたプロセス(岩山, 2021)や、実習自体が共生社会の担い手を増やす機能を持つこと(岩山, 2022)などを明らかにしてきた。直近の論考では、公認心理師の養成に関する全国規模の実態調査「公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査」(一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟, 2022; 以下、「実習に関する調査」)の内容を精査し、「心理実習」における学習目標の修正に関して、実習施設の実態から乖離する大学側の意向に偏った提言が盛り込まれていることを示した(岩山, 2023)。

「中間整理」では、2024年4月以降に養成カリキュラムの修正および充実、コアカリキュラムの策定等を行う方針が示されている。したがって、直近の論考(岩山, 2023)では十分に検証できな

かった「心理実習」の学習目標に関する提言の矛盾点がなぜ生じたのか、実際に必要な学習目標の修正とは何かについて、さらに論考を深めていくことが求められると言える。ここで、「実習に関する調査」におけるカリキュラムに関する提言を再度確認すると、

「**【国への要望】** 要支援者等に関するコミュニケーションの知識の獲得を、心理実習の「含まれる事項」に明示すること

(中略) 今回の調査結果では、大学課程段階での実習では、まず倫理やマナーについての学びが求められていたが、それにとどまらず、要支援者等に関するコミュニケーションの知識についての学びも強く期待されていることが明らかとなった」(一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟, 2022, p.230; 強調筆者)

といったように、「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」の獲得を「心理実習」の学習目標に含めることが主張されていた。

しかしながら、この提言は養成機関である大学側の意向に偏ったものであり、要支援者やその関係者等に接する機会が限られる「見学・講義・体験型実習」を中心とせざるを得ない「心理実習」の実態から乖離した提言であること、「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」の具体的な内容が不明瞭なままであることは、直近の論考(岩山, 2023)で指摘した通りである。「実習に関する報告書」を読み解くと、実習施設側が「一般常識を備えていること」「患者や職員に対する礼節」「基本的な挨拶や服装」「社会人としての基本・報連相・一般常識・マナー等」「適切な対人関係が築ける素地」などを実習生の準備性として強く求めていることから、「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」以前の基本的なコミュニケーションの学習が不十分であることがう

Table 1 「心理演習」の内容に含まれる事項(文部科学省・厚生労働省, 2017をもとに一部改変)

知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
(1) コミュニケーション
(2) 心理検査
(3) 心理面接
(4) 地域支援 等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
※ (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
※ (エ) 多職種連携及び地域連携
※ (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
※ 「心理実習」の学習目標にも該当する項目

かがえる。言い換えれば、養成機関である大学側と実習施設側との間で「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」の学習内容を巡ってお見合い状態になっているとも言え、「心理実習」の前段階におけるカリキュラムから体系的に「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」を学べる仕組みが出来ていないと言えるのではないだろうか。

現場で公認心理師の業務に触れる機会となる「心理実習」を有意義にするためには、「現場を捉えるための観点」を身につける「心理演習」との連続性が重要となる(波多野, 2019)。既に、「心理演習」の学習目標(Table 1)には「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」が含まれていることから、「心理実習」の前段階となる「心理演習」における授業運営に改善すべき点があると考えられる。

以上のことから、本研究では「心理実習」の前段階となる「心理演習」の授業運営の実態を調査し、先の提言の矛盾点が生じた要因が「心理演習」の授業運営にあるのか、あるとすれば今後どのような学習目標の修正や充実が必要となるのかについて明らかにすることで、公認心理師カリキュラムの見直しの際に資する知見を得ることを目的とする。

## 方 法

公認心理師養成における「心理演習」の授業運

営の実態を偏りなく調査するため、厚生労働省公認心理師制度推進室のWebページで公開されている「4. 公認心理師となるために必要な科目を開講する大学等」(2023年12月1日現在)のリスト<sup>2)</sup>を用い、掲載されている大学における「心理演習」のシラバスを分析する悉皆調査を行った。なお、本研究は「心理演習」の授業運営に関する全体的な傾向を分析することが目的のため、特定の大学名を挙げての言及はせず「医療系大学では…」など説明に必要な最低限の表現に留めた。

### (1) 調査対象

リストに掲載されている大学(専門学校1校を除く)における「心理演習」に関して、大学公式サイトに公開されているシラバス検索システムを用いて、「心理演習」のシラバスを検索した。同一大学で複数学科が存在し、カリキュラムが異なる場合は別々の科目としてカウントした。また、同一名で複数開講されていても内容が同じ場合は代表的なものを1つの科目としてカウントした(例:「心理演習a」、「心理演習b」…とあるが、クラスの区別を意味する場合)。ただし、「心理演習I(検査)」「心理演習II(面接)」などと内容が異なる場合は、すべてを合わせて1つの科目としてカウントし単位数や授業回数は合算した。通学課程と通信課程が併設されている大学では通学課程の科目のみをカウントした。

以上の結果、233のシラバスが抽出されたが、このうち開講前( $n=4$ )、授業計画の記載が不十

分<sup>3)</sup> ( $n=6$ )、実験・調査系の内容が多く含まれている<sup>4)</sup> ( $n=2$ ) のものを除き、最終的に221のシラバスを分析対象とした。

## (2) 調査項目

### 1. 基本情報

#### ・対象年次

3-4年次と複数年提示されている場合は、早い方を対象年次とした。

#### ・心理実習との前後

「心理実習」が後続科目となっているかを確認した。「心理演習」の履修後に「心理実習」を履修する場合は「履修後」に、「心理演習」の履修期間中に「心理実習」の履修期間が被る場合は「履修中」に、「心理演習」の履修前に「心理実習」の履修が終わっている場合は「履修前」にそれぞれ分類した。

#### ・単位数

#### ・授業回数

試験回や授業外の課題についてはカウントしなかった。学期制や授業時間によらず授業1回分を1回としてカウントした。

#### ・条件/制限

「心理演習」の履修にあたって、何らかの条件や制限を課しているか確認した。特定の科目の単位取得を履修条件とするものの人数制限が明記されていない場合は「条件あり」、成績(GPA)や面談などにより選抜を行う場合は「制限あり」に分類した。いずれも当てはまる場合は、「制限あり」の方に分類した。「心理実習」には条件/制限がある場合でも、「心理演習」自体には条件/制限がない場合も含めて、それ以外は「なし」に分類した。

#### ・注意喚起

「授業外課題が多い」「グループを組むため欠席によりメンバーに迷惑がからないようにすること」「演習授業のため欠席は認められない」「欠席が続く場合、履修継続を中止することがある」など、履修上の負担や責任、ペナルティについて明記されている場合は「注意喚起あり」に分類した。

#### ・負担への言及

履修上の配慮について、「ロールプレイや事例検討では、これまで以上に自らの内面に向き合う時間も多くなるため、よく考えた上で履修するこ

と」など、心理的な負担が生じる可能性のみ記載されている場合は「説明あり」に分類した。合理的配慮の提供まで明記されている場合は「配慮あり」に分類した。

### 2. 授業内容

#### ・実施形態

各回の授業の実施形態について、「心理演習」の学習内容(Table 1)に基づき、「ロールプレイ」「事例検討」の2つに当てはまるか確認した。実施形態が明記されていない場合でも「患者役と治療者役」「事例をもとに」など、内容を判別できる場合は「ロールプレイ」「事例検討」にそれぞれ分類した。なお、いずれにも当てはまらない、オリエンテーション、グループ分け、振り返りなどは「講義・その他」に分類した。

「ロールプレイ」には紙上の応答練習や、検査の模擬練習、箱庭療法や絵画療法などの体験、心理教育プログラムなどのファシリテーター/参加者体験も含めた。

#### ・実施内容

各回の授業内容について、「心理演習」の学習内容(Table 1)に合わせて、(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の「(ア-1) コミュニケーション」「(ア-2) 心理検査」「(ア-3) 心理面接」「(ア-4) 地域援助」、(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成「(ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ」「(エ)多職種連携及び地域連携」「(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」に分類した。いずれにも該当しないもの(例:「心理実習へ向けての心構え」「ポートフォリオ作成」など)については、「該当なし」に分類した。

なお、明らかな誤字と思われるものは適切な項目に分類した(例:「他職種連携及び地域連携」→「(エ)多職種連携及び地域連携」)。ただし、文脈から誤字でないと思われるものは意図すると思われる項目に分類した(例:「他職種とのコミュニケーション」→「(ア-1) コミュニケーション」)。

#### ・コミュニケーション/心理面接

「(ア-1) コミュニケーション」の授業内容が「(ア-3) 心理面接」の授業内容と明確に区別され

ている場合は「区別あり」に分類した。コミュニケーションと明記されている場合でも、「かかわり行動」など「(ア-3) 心理面接」におけるコミュニケーションに限定されていると思われる場合は「区別なし」に分類した。この場合、授業内容の分類としても「(ア-1) コミュニケーション」ではなく「(ア-3) 心理面接」に分類した。

**(3) 集計方法**

1 回分の授業内容で「ロールプレイと事例検討により…」 「多職種連携とチームアプローチ」などと、分類項目をまたがっているものについては、例えば「ロールプレイ」0.5、「事例検討」0.5といったように等分した。また、授業回数が異なるため、授業内容についてはそれぞれの項目を授業回数で割った比率を用いた（例：全15回の授業で「ロールプレイ」6回、「事例検討」6回、「講義・その他」3回の場合、「ロールプレイ」40%、「事例検討」40%、「講義・その他」20%とした）。

**(4) 統計解析**

シラバスの基本情報、授業内容の記述統計として、各項目の頻度、割合（%）を示し、必要に応

じて平均値、標準偏差、範囲、を合わせて提示した。集計にはIBM SPSS V29を用いた。

**結 果**

**(1) 基本情報**

シラバスの基本情報に関する記述統計をTable 2に示した。

心理演習の履修対象となっている年次は「3年次」が71.5%と最も多くなっていた。次いで、「2年次」が16.3%、「4年次」が11.8%と続いていた。

「心理実習」との前後関係については、「心理演習」の「履修後」に「心理実習」が後続科目として位置づけられているケースが64.7%と最も多くなっていた。次に、「心理演習」の「履修中」に「心理実習」の履修期間が被っているケースが30.3%となっていた。一方で、「心理演習」の「履修前」に「心理実習」の履修が終わっているケースが5%とわずかではあるが見られた。

単位は「2単位」が79.2%と最も多く、次いで「4単位」が15.4%で、それ以外はほとんど見られなかった。授業回数は「15回」が57.5%と最も多く、次いで「30回」が26.7%となっていた。

履修に関する条件や制限については、条件や制

**Table 2 「心理演習」の基本情報 (n = 221)**

項目数	n	%	項目数	n	%	項目数	n	%
<b>対象年次</b>			<b>授業回数</b>			<b>負担への言及</b>		
1年次	1	0.5	8	1	0.5	なし	193	87.3
2年次	36	16.3	10	1	0.5	説明あり	23	10.4
3年次	158	71.5	13	1	0.5	配慮あり	5	2.3
4年次	26	11.8	14	11	5.0	<b>注意喚起</b>		
<b>「心理実習」との前後</b>			15	127	57.5	なし	125	56.6
履修後	143	64.7	20	2	0.9	あり	96	43.4
履修中	67	30.3	27	1	0.5			
履修前	11	5.0	28	12	5.4			
<b>単位</b>			30	59	26.7			
0.5	1	0.5	45	2	0.9			
1	8	3.6	60	3	1.4			
2	175	79.2	75	1	0.5			
3	1	0.5	<b>条件/制限</b>					
4	34	15.4	なし	108	48.9			
6	1	0.5	制限あり	75	33.9			
10	1	0.5	条件あり	38	17.2			

限を「なし」としているケースが48.9%で最も多かったが、成績(GPA)や面接などで何らかの選抜をしている「制限あり」のケースも33.9%と一定程度見られた。なお、選抜は行っていないものの、特定科目が履修済であることを条件としている「条件あり」のケースは17.2%と比較的少数であった。

シラバスにおいてロールプレイなどで心理的負担が生じることを記載している「記載あり」のケースは10.4%、合理的配慮まで明確に記載している「配慮あり」のケースは2.3%に留まり、負担について言及されていないケースが87.3%と大半であった。

欠席についてのペナルティ等の注意喚起は「記載なし」が56.6%、「記載あり」が43.4%と同程度であった。

## (2) 授業内容

シラバスの授業内容に関する記述統計をTable 3に示した。

授業の実施形態については、「ロールプレイ」が平均39.2%と最も多く、次いで「講義・その他」が平均34.4%、「事例検討」が平均26.4%となっていた。ただし、いずれも最小値が0%、最大値が100%のものがあり、「ロールプレイ」のみ、「事例検討」のみ、あるいは「講義・その他」

のみで開講されているなど実施形態が偏っているケースもわずかではあるが見られた。

授業の実施内容については、「(ア-3) 心理面接」が平均29.1%で最も多く、次いで「(イ) 理解とニーズの把握及び支援計画」が平均14.5%、「(ア-2) 心理検査」が平均13.6%となっていた。それ以外はすべて平均10.0%を下回っており、先述した「実習に関する調査」の提言にあった「(ア-1) コミュニケーション」に関しては平均7.0%に留まっていた。さらに、「コミュニケーション」と記載があるものでも、コミュニケーションの基本(挨拶やマナー)といった「(ア-3) 心理面接」の内容と明確に区別できるケースは対象となったシラバスのうち41.2% ( $n = 91$ )に留まっていた。

また、授業の実施形態と同じく、最小値が0%、最大値が93.3%のものがあり、いずれかの内容に極端に偏った実施内容となっているケースも見られた。また、「その他」が平均15.5%となっており、心理実習の下準備など「心理演習」の学習目標に含められない内容が一部入っているケースも見られた。

## 考 察

本研究では、「心理実習」の前段階に位置づけ

Table 3 「心理演習」の授業内容 ( $n = 221$ )

項目	<i>M</i>	<i>SD</i>	Range
<b>実施形態</b>			
ロールプレイ	39.2	19.2	0 - 100.0
事例検討	26.4	18.0	0 - 92.9
講義・その他	34.4	20.9	0 - 93.3
<b>実施内容</b>			
(ア-1) コミュニケーション	7.0	9.7	0 - 80.0
(ア-2) 心理検査	13.6	12.7	0 - 56.7
(ア-3) 心理面接	29.1	19.4	0 - 93.3
(ア-4) 地域支援等	5.3	6.7	0 - 39.3
(イ) 理解とニーズの把握及び支援計画	14.5	14.6	0 - 80.0
(ウ) チームアプローチ	4.1	5.7	0 - 35.7
(エ) 多職種連携及び地域連携	6.3	6.2	0 - 33.3
(オ) 職業倫理及び法的義務 該当なし	4.6 15.5	4.7 13.4	0 - 20.0 0 - 64.3

られる「心理演習」の実態調査を行い、「実習に関する調査」で提言されていた「要支援者等に関するコミュニケーションの知識」に関する矛盾点のさらなる検討も含めて、公認心理師カリキュラムの見直しの際に資する知見を得ることが目的であった。

公認心理師養成カリキュラムに対応している大学のシラバスを対象に悉皆調査を行ったところ、「心理演習」は必ずしも「心理実習」の前段階として機能していない側面も見られた。以下、(1) 基本情報と(2) 授業内容の2点から、「心理演習」の授業運営の問題点を明らかにし、カリキュラム見直しに向けての改善の方針を示すこととする。

### (1) 基本情報

基本情報の調査結果から、「心理演習」は3年次に履修し半期15回(1-2単位)、通年30回(2-4単位)という割当が最も多くなっていた。ただし、シラバスには授業外学習時間について言及されていることが多く、単位数や授業回数から単純に学びのボリュームを表すことは難しいと言える。

また、他の資格関連科目や卒業論文などのカリキュラム上の兼ね合いからか、「心理実習」も3年次に開講されるなど、「心理演習」と「心理実習」の履修期間が被っているケースも少なからず見られた。この場合、「心理演習」で学んだ内容を活かせるように「心理実習」が被る期間を半期に留めるケースも見られたが、両者の学びが関連することなく独立で運営されているケースも少なからず見られた。

さらに、割合としては少なかったものの、「心理演習」に先立って「心理実習」の履修が始まっている、あるいは既に終わっているケースも見られた。この場合、「心理実習」で触れた現場のイメージを持ちながら「心理演習」の授業で各種ロールプレイや心理検査の実施がなされるような設計がなされていた。ただし、一部では「心理実習」の実習体験の振り返りを「心理演習」に盛り込むなど、「心理演習」の学習内容が削られているケースも少なからず見られた。いずれにせよ、先述した「実習に関する調査」において、実習施設側が実習生にある程度の一般常識やコミュニケーションスキルを身につけて実習に臨んで欲しい

いと回答していることから考えると、「心理演習」の段階で「要支援者等に関するコミュニケーション」を学ばずに「心理実習」に臨む状況は避けた方が良いと思われる。

なお、ロールプレイなどによる心理的な負担を記載しているものは1割程度、合理的配慮まで明確に記載されているものは全体で5ケース(2.3%)しか見られなかった。もっとも各大学では「心理演習」や「心理実習」の履修に先立ってガイダンスを実施していると思われるが、履修上の条件や制限を課していないケースが半数程度あることも今回の調査結果から判明しており、授業内容をよく理解できずに履修をしてしまう学生も一定数存在すると思われる。学部課程における養成教育では、大学院入試のような選抜を経てある程度の覚悟を持って履修する学生ばかりではないことから(岡本他, 2019)、授業内容が自身にどのような影響を及ぼすか、あるいはどのような合理的配慮を受けられるかを前もって確認できる情報源は複数ある方が望ましいと考えられる。

### (2) 授業内容

次に、授業内容に関しては「実習に関する調査」で提言されていた「要支援者等に関するコミュニケーション」については平均7.0%に留まっており、まったく実施されていないケースも見られた。また、「(ア-1) コミュニケーション」の内容も非言語的なコミュニケーションの重要性に気づく各種体験ワークや、自己理解や他者理解をテーマとするグループ体験など、集団精神療法の延長とみなせるものが大半であり、要心理支援者等に限らず、実習施設の職員やスタッフなどに関わる際のマナーやコミュニケーションまで含まれた内容となっているケースは極めて限られていた。

対照的に、「(ア-3) 心理面接」、「(イ) 理解とニーズの把握及び支援計画」、「(ア-2) 心理検査」が占める割合が大きかったことから、心理面接や心理検査を含む心理的アセスメントに偏った授業運営がなされていることがうかがえる。医療系の大学では「(ア-2) 心理検査」において神経心理学的検査まで幅広く学べる内容となっている例も見られたが、いずれにせよ「心理実習」の学習目標となっている「(ウ) 心理に関する支援を要す

る者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ」「(エ) 多職種連携及び地域連携」「(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」に関しては、各平均5%程度に留まっているのが実態である。

以上のことから、現状の「心理演習」においては「要支援者等に関するコミュニケーション」に留まらず、公認心理師の業務に実際に触れる貴重な機会となる「心理実習」に必要な準備性を十分高められない授業運営が多い実態が明らかとなった。

### まとめ

本研究では、公認心理師養成カリキュラムに対応する大学における「心理演習」のシラバスを対象に悉皆調査を行った。調査の結果、先述した「実習に関する調査」における矛盾をはらむ提言が生み出されるような、現場の実態と乖離した個別面接・心理検査偏重のいわゆる従来型の授業運営が未だ多い実態が浮き彫りとなった。

一方で、今回の調査結果で見られた授業内容には、公認心理師のさまざまな業務場面における「コミュニケーション」を取り上げた非常に参考になるケースもいくつか見られた。例えば、「チーム会議における多職種のコミュニケーションに関するロールプレイ」や「地域連携における引き継ぎや情報共有のコミュニケーション」、「実習施設の利用者とのコミュニケーションで気を付けるべき倫理的問題」などである。今後はこのような「心理実習」における学びの準備性を高める工夫がなされている授業内容を広く共有し、従来型の授業内容からの脱却および転換を図っていくことが求められる。

最後に、本研究では大学公式のWebページ、履修要項、デジタルパンフレットなどを参照してできる限りの情報収集に努めたが、選抜の有無や形式など内部資料を参照しないと明確には判別できなかったものも少なからず存在した。したがって、本研究による調査結果に実態に即していない情報が含まれている可能性がある。今後は、可能な限り具体的な授業内容を対象とした事例研究を行うことで、本調査結果では十分明らかにできなかった、「心理実習」における学びの準備性を高

める要因を明らかにすることが求められる。

### 注

- 1) 実際には、「心理実習の内容に含められる事項」といったように、「～に含められる事項」と表されるが、以降は特に断りが無い限り「学習目標」と表記する。
- 2) [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_26518.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_26518.html)
- 3) 例えば、「詳細は担当者から提示する」「第1クールを実施」などの記載に留まっているケース。
- 4) 全15回のうち5分の4以上が実験・調査系の内容で占められ、本来の「心理演習」の学習目標に合致するものは数回程度というケースも見られた。

### 引用文献

- 波田野茂幸 (2019). 放送大学における公認心理師養成に向けた「心理実習」の検討 放送大学研究年報, 37, 31-43.
- 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟 (2022). 厚生労働省令和3年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査」報告書 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟 Retrieved December 5, 2023, from <https://kouyouren.jp/wp-content/uploads/2022/05/Report20210401R.pdf>
- 岩山孝幸 (2021). 「心理実習」に求められる学びのあり方について—公認心理師カリキュラム等検討会・ワーキングチームの議論をもとに— 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, 23, 115-122.
- 岩山孝幸 (2022). 「心理実習」に求められる学びのあり方について(2)—ケア関連専門職の養成教育のあり方を参考にして— 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, 24, 127-134.
- 岩山孝幸 (2023). 「心理実習」に求められる学びのあり方について(3)—「公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査」報告書をもとに— 昭和女子大学生生活心理研究所

紀要, 25, 53-63.

公認心理師カリキュラム等検討会 (2017). 公認心理師カリキュラム等検討会報告書 厚生労働省 Retrieved December 1, 2023, from <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaiihokenfukushibu-Kikakuka/0000169346.pdf>

厚生労働省 (2022). 公認心理師法附則第 5 条の対応について Retrieved December 1, 2023, from <https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000939259.pdf>

文部科学省・厚生労働省 (2017). 公認心理師法第 7 条第 1 号及び第 2 号に規定する公認心理

師となるために必要な科目の確認について Retrieved December 3, 2023, from <https://www.mhlw.go.jp/content/000712061.pdf>

文部科学省・厚生労働省 (2023). 公認心理師法附則第 5 条に基づく対応状況について：ヒアリング結果に基づく中間整理 Retrieved December 1, 2023, from <https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/001110999.pdf>

岡本祐子・宮崎 昭・川畑直人・元永拓郎・藤城有美子 (2019). 公認心理師養成に向けて——実習のあり方を考える—— 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟 (編) 公認心理師養成の実習ガイド (pp.6-35) 日本評論社

---

いわやま たかゆき (昭和女子大学人間社会学部心理学科)